

2023年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2024/9/14

<p>団体名</p>	<p>一般財団法人ヒューマンライツ協会</p>	<p>活動タイトル</p>	<p>外国籍、外国にルーツのある子どもの日本語学習支援事業</p>	
<p>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p>			<p>■ 活動風景</p>	
<p>●地域の望ましい社会状況(ビジョン)</p>	<p>当団体では地域の子ども、子育て世帯への支援活動を行う中で子どもが将来の夢をかなえるために一緒に障壁を乗り越えていけるように活動を行っている。特に昨今の状況を見て、「子どもが将来の進路等を考える際に家庭環境、出身地、国籍等による格差が発生しないこと」をビジョンとしている。外国籍の子どもが学童期のどの時期に来日しても日本語学習で遅れをとることがなく、進学や就職といった将来のことを考える際に出身地によって不平等が発生しないこと、日本の基礎学力が定着していないために将来の選択肢が狭まらない社会になることを目指していく。</p>		<p>「読み聞かせ」説明等 授業の最初は講師による読み聞かせから始まります。継続して実施することで、内容に対する会話が発生し、児童が自分で読み聞かせができるようになりました。</p>	
<p>●団体の社会的役割(ミッション)</p>	<p>当団体の社会的役割としては、外国にルーツのある子どもへの日本語学習支援を行うことで、子どもの教育格差を無くすこと、また子どもへの支援を通じてその保護者とのつながりを作り、家庭全体の支援を行えるようにすることがある。実際には①子どもが参加しやすい日本語教室の場を設け、学習支援を行う。②その学習支援の場を拡大しながら外国にルーツのある子ども、保護者が何かの際に相談できる場、立ち寄れる場として機能させる。この2点をミッションとして団体は活動を行い、支援を進めていくことで社会的役割を果たしていく。</p>			
<p>●団体の活動基盤</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●望ましい人的資源： 日本語教師としての資格を持つ者が活動時に常時在籍していること。またそれを手伝う有償・無償スタッフについても一定の日本語指導が行えるレベルにあり、国籍が違う子どもを見ながら多様な価値観を理解できる人材を育成すること。 ●望ましい物的資源： 活動場所を地域の小学校内に確保し、物品においても地域の団体、個人からの寄付等で最低限賄える関係性が築けていること。 ●望ましい活動資金： 新たな助成団体を確保することで、活動の範囲、目的が拡大した際に必要な支出を賄える状態にあること。 ●望ましい情報： 支援が必要な子ども、家庭が早期に判明するように学校との開かれた情報交換が定期的に行われている。また既存の地域で行われている大人向け日本語教室参加者の情報が常に把握できている状況であること。 			
<p>■ 活動報告</p>		<p>■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>		
<p>2023年9月～2024年7月にかけて大阪市立北津守小学校内にて基本毎週火曜日、15：00～17：00にて日本語教室の実施した。学校との連携により、真に日本語学習が必要な児童を学校側で選び、転入生や新1年生も含め、計13名の対象者、延べ参加人数253名が参加した。</p> <p>授業は年間で40回実施した。下校時間が異なるため、1、2年生と3～6年生に分けて各1時間ずつ開講、1、2年生についてはひらがなを中心とした文字の認識、3年生以上は自分の考えをまとめ、文章にし発表することができるようにし、成果の出る授業を目標として実施。参加講師は、当財団職員2名と日本教師資格保有者1名、大学生アルバイトスタッフ2名の計5名を中心に授業を行った。また適宜異文化体験のための工作活動や読み聞かせを毎回実施する中で、参加児童が自身で読み聞かせを通じて参加者の前で発表する力を身に付ける時間も設け、学習成果を出すだけでなく児童が継続して通いやすく楽しめるコミュニティとしての場の運営を行った。</p>		<p>参加児童の学習成果として、1、2年生は日本語の理解がほぼない状況から始まったが、1年間参加した結果、</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ひらがなの習得（読み・書きを中心に） ②日常・学校生活で使用する単語の習得（文具・学校にあるもの・動物・時計の読み方・家族・建物・カレンダー・反意語・比較表現等） ③会話表現の習得（自己紹介、挨拶、家族の紹介、休日の行動、助詞の使い方、時制を意識した会話等） <p>以上3点が、初回から参加した児童に関しては習得済み、4月から参加した新1年生については①②③を毎回の授業の中で実施している。</p> <p>3～6年生については</p> <ul style="list-style-type: none"> ①転入生等途中参加者は上記①②③の習得 ②児童による音読（読み聞かせ）の実施 ③自分の考えをまとめ作文・発表する力を身に付ける <p>が達成成果として挙げられる。</p>		
<p>■ 事業を通じて得られたノウハウ</p>		<p>■ 望ましい社会状況を達成するための課題</p>		<p>■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ①人材面としては今回の活動において京都外国語大学とのつながりができ、日本語講師資格保有者及び在学生の派遣環境が整い、今後も含め継続した人員の確保ができるようになり、その過程で学校機関との調整方法がノウハウとして得られた。 ②学校内で活動を行うことにより、より地域の児童とのつながりを得られまた学校機関との連携方法についてのノウハウが得られた。 ③外国籍・外国にルーツのある子どもの実態、日本語の習得状況だけでなく、学校内での生活状況や同級生との交友状況など深く知ることができ、その情報・ノウハウの蓄積により今後の運営また各種活動へ活かすことができる。 ④日本語が通じない子どもへの学習支援という今まで対応がなかった分野において、どのように学習を進め、成果を出すかについては今回の活動にて多くの知見、ノウハウを得ることができた。 		<ul style="list-style-type: none"> ①子どもの学習支援活動を通じて、保護者をはじめとした、地域の大人への支援につながる活動が今後は必要になる。子どもへの日本語学習支援は行政や学校独自の取組等があるが、その一方で、大人への学習支援はさらに少なく、本来はその隠れた要支援者の発見に努める必要がある。 ②行政・地域とのさらなる連携。今回は本助成を活用し、地域と学校が連携した活動を展開することができたが、さらなる要支援者の発見のためには、行政やさらに広い地域との連携を行い、1つの学校の問題として終わらずに大阪市・大阪府全体の問題として現状の問題を共有する場を設定する必要がある。 		<p>この1年間の活動を通じて</p> <p>参加児童の目に見える形での日本語能力の改善を</p> <p>を達成しました。</p> <p>■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</p> <p>日本語の理解が進んだことにより、学校での授業や友達との関係性も改善される。語彙量の増加により自分の伝えたいことを伝える、意見を言うことができるようになったことが大きく寄与している。</p>